

ハイブリッド・電気自動車用の電池が急拡大

5月に三洋電機が300億円を投資してハイブリッド車専用のリチウムイオン電池の新工場を増設して供給能力を年産12万台超の6倍に増やす計画を発表。現在主流のニッケル水素電池も2.5倍に増産することになっておりハイブリッド車市場の急拡大に対応してゆく。

リチウムイオン電池はニッケル水素電池の2.3倍の高い出力を持ち、近い将来、ハイブリッド車や電気自動車への搭載がスピードアップすると考えられている。三洋電機と共同研究している独フォルクスワーゲンが搭載予定。

現在、三洋電機のハイブリッド車用ニッケル水素電池はホンダの「インサイト」や米フォードに供給されているが、これも、現在の6万台→15万台分へ増やしているところ。三洋電機はパソコン用リチウム電池では世界の30%のシェアをもつトップ。その三洋電機を子会社にするパナソニックはトヨタ自動車と共同出資で「パナソニックEVエナジー」をつ

くり、トヨタの『プリウス』用にニッケル水素電池を供給。リチウムイオン電池を共同研究している。

ハイブリッド車や電気自動車向け電池の量産計画は「三洋電機」のほかに「日立製作所」、「パナソニック」、「NEC」、「ジーエス・ユアサコーポレーション」(ホンダ)、「GSユアサ」(三菱自動車)と目白押し。

「日立製作所」はすでに、自社のリチウムイオン電池に比べて2~7割出力の高いリチウムイオン電池を開発済みで、GMが2010年から発売するハイブリッド車10万台分のリチウムイオン電池を受注済み。2010年秋を目標に生産能力を7倍に増やす。さらに、国内海外からのリチウムイオン電池の受注増を目指し、2015年には生産能力70万台体制にするという。

日本の将来が「明るく」「楽しみ」なニュースである。

郵便事業会社の環境対応車導入

まずは電気自動車から

三菱自動車と富士重工業の「電気自動車」が20台ずつ計40台が日本郵政グループの郵便事業会社に導入された。車両価格が高価なので今のところ、40台ともリース契約とのことだが量産効果が出てきて買いやすい価格になれば購入されることになる。「将来は郵便や小包の集配に使いたい」とする日本郵政グルー

プ。2万6000台の車を使っている郵便事業会社の車が環境対応車に切り替われば相当な環境負荷の低減になる。年末には家庭で充電できるプラグインハイブリッド車も試験的に導入の予定。郵便事業会社の環境対応車導入の社会に与える影響は大きい。

「次世代自動車」ってなあに？

「次世代自動車」の企業の利用事例を東京都が、ネットで紹介するらしい。

ところで、「次世代自動車」とはなんのことだろうか？

「環境にやさしい次世代自動車」といういいまわしをしているので、「石油」「石炭」「ガス」などの化石燃料を燃やして炭酸ガスを大量にだすものではなく、「風力」「水力」「原子力」「太陽光」エネルギーを動力とする自動車のことか、と思ったら「あたりまえ」といってもおかしくず。どうやら「電気自動車」のことらしいのだ。

東京都によれば、都内の2酸化炭素排出量の20%は自動車からのもので、それを減らすためには今後の5年間で「次世代自動車」を1万5000台、急速充電設備80基を普及させなければいけない。普及させるためには電気自動車の利用状況、充電設備の設置状況、導入した企業の営業、配送、走行距離、積み荷の重さ、車両の性能などの情報を公開して、導入しようと考えている企業の不安感を払拭するのが狙い。「次世代自動車」の駐車料金の割引情報も提供する。

東京都は「環境にやさしい次世代自動車」の普及促進のため情報提供を決めている。

貴方は「野菜」や「果物」ジュースの本物の味を知っていますか？

天然自然の採れたての「野菜」や「果物」をみずみずしいうちに絞って、缶やビン、ペットボトルなどへ閉じ込めた「美味しいジュース」は飲めないものだろうか？こんなささやかな願いが実現できていないのが現代の日本という国だ。

栃木県の「黒田原」という駅前に村のデパートがある。デパートとは名ばかりで、何でも売っている「何でもや」さんが、野菜などは地元で栽培されたもの。商業主義とは無縁で、露地でつくられた野菜がほとんど。だからトマトなども中には虫食いのももあり、形もふぞろいだ新鮮さは

ピカー。当然値段も安く、一ザルに7~8個で150円ほど。それを買ってきて、水で洗い、適当な大きさにカットして、ミキサーに入れる。ビール用のジョッキに注いですぐに飲む。うまい！、サラッとしていて上品で、とても得をしたような気になる。これだ！細胞の一つ一つが久しぶりの親友に会えたように喜びに満ちる。

人の本当の喜びは、ほんものの食品に出会い、新鮮なうちに食べることではないか。身体が、うち震えるような興奮と喜びは何物にも代えがたい。